
短編「ガチャガチャ B L U E S i n 文具店」

鳥海ドゥンガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編「ガチャガチャB L U E S i n 文具店」

【Nコード】

N 9 8 5 8 E

【作者名】

鳥海ドゥンガ

【あらすじ】

小学三年生のMヨシがノートを買いに文具店に行くと、店先にガチャガチャのマシーンが置いてあった！そのガチャガチャはおしゃべり機能付きで、少年の無駄遣い心を刺激するようなことばかりを言うのだが、はたしてMヨシは耐えることができるのか！？

小学三年生のMヨシはノートを買いに文具店へやってきました。いつも使っている国語のノートを売り場から一冊取ると、それを持ってレジへと向かいます。

レジにいるおじさんはこの店の店主で、あまり多くを語らないタイプの人です。

「一〇〇円だよ」

Mヨシは母親からもらった千円札をポケットから取り出し、おじさんに渡しました。

「九〇〇円のおつりだよ」

おつりは全て一〇〇円玉でした。

Mヨシは一〇〇円玉九枚をポケットに入れ、ノートを持って店を出ます。

店のドアを出ると不意に、「イラッシャイ！楽シイヨ！」という威勢の良い能天気な機械音声がかえってきました。

声を出していたのは店先に置かれているガチャガチャでした。ガチャガチャとはカプセルに入ったおもちゃをガチャガチャ、ポンと売っているあれです。

「あ、ガチャガチャだ！」

Mヨシは条件反射的にガチャガチャの前にやってきました。

「イラッシャイ！楽シイヨ！」

「すげー！このガチャガチャしゃべるんだ！」

「イラッシャイ！楽シイヨ！」

このガチャガチャマシンには、人の存在をセンサーで感じ取るとプログラムされたせりふをしゃべる機能が付いていました。人の心理の隙を突くような事を言って、ガチャガチャの売り上げを増やそうという仕掛けです。

Mヨシは四台あるガチャガチャのマシンを、何が売っているの

かひとつひとつチェックしました。

「あーっ！タ、タイラくんだ！」

タイラくんとは『落武者少年タイラくん』という不人気アニメのことで、Mヨシのクラスでこのアニメを見ているのはMヨシただひとりです。

不人気の原因は、主人公のタイラくんが、落武者という負のイメージが大きい設定であるうえに、見た目もキモチ悪いことでした。それが全国の少年少女たちに受け入れられず、初回の放送から記録的な低視聴率をはじき出してしまったのです。続く二回目の放送でも視聴率は上がるどころかさらに下がり、三回目にして早くも放送時間が変更されてしまいました。

土曜ヨル七時の放送から日曜アサ五時の放送になっても、Mヨシは「落武者ってなんかイイ！」といって、今まで放送された一五回分を全て逃さず見えています。

自分が大好きなアニメの人形が売っているガチャガチャを見つけて飛びつかない子供などいません。

「タイラくんチョー欲しい！」

ポケットには一〇〇円玉が九枚あります。一回一〇〇円なので九回もできる計算です。

「でもどうしよう・・・おつりは全部母さんに返さないとひどく怒られるんだよなー」

Mヨシが悩んでいるとガチャガチャが自動プログラムでしゃべりはじめました。

「一回デ欲シイノガ出ルカモヨ！マズ一回ヤツテミヨウヨ！」

「そっか、一回だけならノートが二〇〇円だったことにしちゃえば平気だな！」

Mヨシは一〇〇円玉をひとつ、マシーンに入れました。

「ヨシ来ターッ！ればーヲオモイツキリ回シテクレッ！」

Mヨシはレバーを思いつき回しました。

「タイラくん出る！」

ガチャガチャとレバーを回すと、ポンとカプセルが出てきます。カプセルを開けると入っていたのは上下ジャージ姿の太ったおじさんの人形でした。満面の笑顔です。

「・・・誰これ」

見覚えの無いキャラクターだったので、カプセルと一緒に入っている商品ラインナップシートを見ってみました。

ジャージ姿のおじさんが載っています。

名前は『主人公の家の二軒となりに住むおじさん』です。第一話の冒頭にちらっと出てきた人物だそうです。

「イラネー！」

Mヨシはそう言いながら、太ったおじさんの人形をポケットに入れました。

「タイラくんの人形は欲しいけど、これ以上はおつりを使えないや。でも欲しいよなあ・・・」

Mヨシが後ろ髪を引かれながらも帰ろうとすると、ガチャガチャマシンがまたしゃべり出しました。

「次ハ絶対イイノガ出ルト思ウナー」

Mヨシの動きがピタッと止まりました。

「あと一回！これが最後だ！ノートが三〇〇円だったと言えばダイジョーブ！」

Mヨシはマシンに一〇〇円玉を入れます。

「ヨシ来ターッ！ればーヲ思イッキリ回シテクレッ！」

「タイラくんが絶対欲しいっ！」

Mヨシはレバーを回しました。

ガチャガチャ、ポン。

出てきたカプセルを開けると、ジャージ姿の太ったおじさんの人形が入っていました。

「うわっ！またこれだ！」

「ドウ？イイノガ出タデシヨ？」

「全然出ないよ！だまされた！」

「モシ出ナカッタトイウ君ハ残念！運ガ悪カッタネ！ハハハ！」

「なんかむかつく！」

「モウ一回クライヤッテイケバ？マア、オ金ガアレバノ話ダケドネッ」

「なんだとっ！金ならあるわっ！でも使うと怒られるんだよ！」

「コノ、イクジナシー」

「むかー！俺は意気地なしなんかじゃねー！あと一回くらい余裕でできるわ！」

Mヨシは一〇〇円玉をマシンに入れ、レバーを少し乱暴に回しました。

ガチャ！ガチャ！ポン。

出てきたのはまたもや太ったおじさんです。

「アハハハハ」

「あっ！笑ったなこのクソマシン！」

「ヨカッタネー、オメデトー！」

「全然良くねーよ！イヤミってやつかよ！もう怒った！絶対にタイラくんを出してやる！」

気がつくのと同時に日は暮れていて、ポケットには太ったおじさんの人形が八個も入っていました。

「チクショー！これが本当に最後の一〇〇円玉だ！」

Mヨシは一〇〇円玉をマシンに入れ、力を込めてレバーを回します。

「本当の本当にタイラくんが欲しいです！」

ガチャガチャ、ポン。

出てきたのは太ったおじさんです。カプセルを開けるまでもなく、透けて見える色合いですぐ分かりました。

「ぬあああああーっ！」

Mヨシはカプセルごと遠くへ投げ捨てました。

「チクショー！全部太ったおじさんだなんてひどすぎるぞ！このインチキマシーン！詐欺マシーン！うそつきマシーン！ばーか！ポ

ンコツ！こわれてしまえ！」

ガチャガチャマシーンは何を言われてもプログラムされた音声を繰り返すだけです。

「イラッシャイ！楽シイヨッ！」

「うるせ！他になんか言えっ」

「ドウ？イイノガ出タデシヨ？」

「キーン！もう帰る！二度とやるもんか！」

Mヨシは家に向かって歩きながら、おつりを全部使ってしまったという取り返しのつかない現実をはっきり認識しました。

「や、やばいことになっちゃった・・・」

過去の経験から、素直に無駄使いしたことを告白しても確実にカミナリが落ちることは分かっています。逆に誤魔化そうとしてウソをついてもすぐにバレて、よりひどく怒られてしまいます。

「ど、どどどうしよう・・・怒られたくねーよ・・・」

Mヨシは家の手前で立ち止まって、どうにか怒られないで済む方法を本気で考えました。

「よ、よし。イチカバチかの方法で誤魔化そう。多分バレるだろうけど、もしかしたらバレ無いかもしれない。さっきは運が悪かったから今度は平気かもしれないし」

Mヨシは勇気を振り絞って家に入りました。

「ただいま」

「おかえり。おつりは？」

「え・・・無い」

「なんで無いのよ」

「ノート千円だった」

「ウソおっしゃい！」

おしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9858e/>

短編「ガチャガチャBLUES in文具店」

2010年10月9日07時45分発行